

BCGワクチン接種について

【 病気の説明 】

主に、結核菌を吸い込むことで感染する全身感染症です。日本の結核患者はかなり減少しましたが、まだ毎年2万人前後の人が発病しています。結核に対する免疫はお母さんからもらうことができないので、生まれたばかりの赤ちゃんも感染することがあります。さらに、乳幼児は特に結核に対する免疫が弱いので、全身性の結核や結核性髄膜炎になり、重い後遺症を残す可能性があります。

【 対象者 】 生後3か月から1歳の誕生日の前日までの者

【 接種間隔・接種回数 】

標準的には、生後5か月～8か月に達するまでの間に1回接種します。

【 ワクチン接種前の注意点 】

- 結核やその他の疾病の予防接種、外傷等によるケロイドが認められるお子さんや免疫機能に異常のある疾患をもつお子さん（免疫抑制をきたす治療を受けているお子さん）、結核の既往があるお子さんは、接種することができません。
- 家族等身近な人に結核患者がいて接触があった場合など、結核に感染している疑いのあるお子さんは、感染していないことが確認された場合にのみ接種をすることができます。
- このほかにも、接種を中止や延期したほうがよい場合もありますのでかかりつけ医と相談をしてください。

【 ワクチン接種後の注意点 】

★接種後の正常な反応★

接種後10日頃に接種局所に小さな赤いポツポツができ、一部に小さいうみが出る場合があります。この反応は、接種後4週間後くらいが最も強くなりますが、その後はかさぶたができて接種後3か月までには治り、小さなあとが残るだけになります。

★接種後の注意すべき反応（コッホ現象）★

結核に感染している児にBCG接種をすると、早ければ1～2日、遅くとも10日以内に接種局所の発赤、腫脹（はれ）・接種局所の化膿（コッホ現象）が現れます。こうした反応がお子さんにみられた場合は、すぐにかかりつけ医を受診しましょう。

※同封の「BCGワクチンは結核予防ワクチンです」をよくお読みください。

【 副反応 】

発熱や接種1か月前後からまれに接種をした側のわきの下のリンパ節が腫れることがあります。大変大きく腫れたり、腫れが長引いたり、化膿している場合は、かかりつけ医に相談をしてください。その他まれな副反応として、皮膚結核様病変や骨炎、さらにまれな副反応として全身播種性BCG感染症の報告があります。